



校章 昭和27年制定

令和6年度 学校要覧



初代校長：小岩井是非雄 像

校歌

昭和58年制定

島崎光正 作詞

飯沼信義 作曲

一 光をめざし

若草のように

空にのびよう

鉢伏のふもとの丘で

強く直く

二 ひとみをかわし

いずみのように

共に学ぼう

ひろがりの世界の中で

日々をあらたに

三 西山の雪

かがやくように

きよき望み

ひとすじの道につながる

われらが母校

長野県松本ろう学校

昭和3年(寺田五三子氏により創立)

〒399-0021 長野県松本市大字寿豊丘820

☎0263-58-3094 Fax0263-85-1411

寄宿舎☎・Fax0263-86-0100

ホームページ: <https://www.nagano-c.ed.jp/matsuro/>

E-mail: matsuro-sc@pref.nagano.lg.jp

標高706m 北緯36度10分7秒 東経137度59分33秒



松本ろう学校HP
案内地図あります



令和6年度 長野県松本ろう学校 グランドデザイン



【学校目標】

声さわやか 心ゆたか 体げんき

【重点目標】

「声さわやか」に あいさつや返事をする。自分の思いを言葉で伝える。
「心ゆたか」に 思いを感じる。知識を増やす。
「体げんき」に 健康な心と体づくりをする。

《松本ろう学校 運営の柱》

柱1

幼・小・中・高が「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」に基づき「連続性のある一貫した」指導・支援をする学校

柱2

中南信地域聴覚障がい教育の「センターとしての機能」を発揮する学校

柱3

同世代の友との「交流及び共同学習」や「寄宿舎生活」の中で共に育つ学校

《運営の柱1に関して》

連続性のある一貫した指導のできる学校として

適切なアセスメントに基づく個々のニーズに応じた個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成→一貫した指導をする

学校教育・家庭教育・関係機関との連携

基礎学力の向上

- 1 ともに学ぶ楽しさが実感できる授業づくり
- 2 日本語の力を核とした学力の向上
- 3 ICTの活用

働く力の育成

- 1 言語力の向上
- 2 社会性の向上
- 3 体力の向上

幼児児童生徒それぞれが自信をもって自分らしく生きていく力を育む

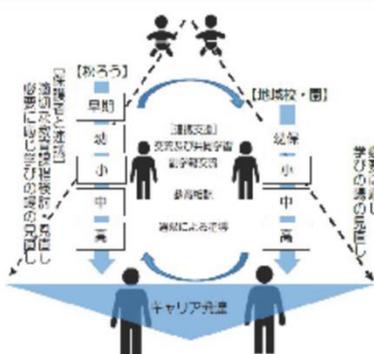
自立活動
キャリア教育の充実

教科指導・重複教育の充実
健康・体づくり

《運営の柱2に関して》

中南信地域聴覚障がい教育のセンターとして

- 1 教育相談・通級指導・早期教育の充実
- 2 中南信地域の聴覚障がい児生支援（地域のネットワークの構築）のため医療・福祉・労働・各市町村・難聴児支援センターなどとの連携



《運営の柱3に関して》

同世代の友との「交流及び共同学習」や「寄宿舎生活」の中で共に育つ場として

- 1 ねらいを明確にした副学級・居住地校交流や提携校との交流等を積極的に実施
- 2 寄宿舎で見通しのある生活の中で、本校および寿台養護学校の豊かな関係づくり、安心安全な環境で社会生活力を育むための支援

長野県の特別支援学校において実現すべき学びの姿
幼児児童生徒の可能性が最大限伸びる学び
共生社会の実現に向けた協働の学び

長野県特別支援学校重点項目

- 1 すべての幼児児童生徒に対し、一人ひとりのニーズに応じた教育を提供
- 2 特別支援学校の専門性の向上
- 3 地域や企業の方との協働の学びの充実
- 4 地元の同世代の友との交流及び共同学習の充実
- 5 幼保小中高等学校における特別支援教育の対応力の向上を支援

《松本ろう学校教職員がめざす姿》

幼児児童生徒の「きこえ」を意識し、ありのままを分かち、考え合うチーム松ろうをめざす

- 人権感覚を常に磨く 率先して人権を守り大切にする 「あなたはあなたのままでいいんだよ」を基本にした指導・支援
- 幼児児童生徒・保護者の願いや障がい特性に応じた一人ひとりの学びの場・学びの方法を共に考える 満足感や成就感を味わえる授業・生活づくりに努める
- 授業力・生活支援力・障がい理解等の向上をめざし、実践を通して研究・研修に努める 校外・校内OJTの活用
- 「今日に満足し明日を楽しみに待つ」学校生活づくりに努める
- 個人（幼児児童生徒、保護者、教職員等）と社会のウェルビーイングの実現に努める

《教育公務員としての自覚と責任を学ぶ 基礎的研修》

高い倫理観と人権意識・非遵行為根絶・危機管理・働き方改革

《安心安全な学校》

・日々の人権教育
・安全教育の実施
・毎月安全点検
・防災教育の実施
・健康教育の実施
・危機管理体制の充実

学校教育目標: 声さわやか 心ゆたか 体げんき

各部の目標

幼稚部	聴く子どもたちを育てる幼稚部	あいさつしよう なかよくしよう いっぱいあそぼう
小学部	進んで自分を表現する子を育てる小学部	よく聴こう・伝えよう 友だちを大切にしよう 体をきたえよう
中学部	自分から学ぶ気持ちを育てる中学部	思いを伝え合おう 共に学ぼう 健やかに過ごそう
高等部	主体的に自分を創る高等部 (産業工芸科/被服科)	伝え合え 知を磨け 健全であれ
寄宿舎	一人一人に合った 自立に向けた力を育てる寄宿舎	自分の気持ちや考えを伝え合いながら生活しよう 個々で定めた目標の達成を目指すと共に、仲間と支え合いながら楽しい生活をしよう 規則正しく安心安全な生活をしよう



寄宿舎 生活の様子



幼稚部 生活発表会



高等部 美術



小学部 はと祭 劇発表



中学部 自然学習

基本日課

幼稚部		小学部		中学部・高等部		寄宿舎	
9:00	登校	8:25	朝の活動	8:25	朝の活動	6:00	起床
9:15	個別指導	8:40	朝の会	8:35	朝の会/SHR	7:00	朝のつどい
9:50	元気の時間	8:50	1校時	8:50	1校時	7:40	朝食
10:20	おはようの会	9:45	2校時	9:50	2校時	8:00	登校準備
11:00	自由遊び	10:30	休み時間			8:15~	登校(順次)
11:40	学級の時間	10:50	3校時	10:50	3校時		
12:20	給食(お昼休み)	11:45	4校時	11:50	4校時	15:00~	下校(順次)
14:25	全体活動	12:30	給食	12:40	給食	15:30	個人活動 学習・入浴 等
15:00	帰りの会	13:35	5校時	13:35	5校時	18:00	夕食
15:15	下校	14:30	6校時	14:35	6校時	18:30	歯磨き
15:25	個別指導	15:15	清掃	15:30	清掃	18:50	清掃
※園庭交流等ある場合別日課		15:30	帰りの会	15:40	帰りの会/SHR	19:00~	個人活動 学習・入浴 等
		15:45	下校	16:00	下校/部活	21:00	就寝 ※学習延灯23時
		水曜日:6校時なし 下校15:00		17:00	部活下校		

※スクールバス出発16:00(水曜日:15:45)

幼児児童生徒数

部	年	男	女	計	合計
幼稚園部	3歳	3	1	4	6
	4歳				
	5歳	1	1	2	
小学部	1	2	1	3	7
	2				
	3				
	4	1	1	2	
	5				
	6	1	1	2	
中学部	1	1		1	6
	2	2		2	
	3	2	1	3	
高等部	1	1		1	1
	2				
	3				
合計		14	6	20	20

早期支援・通級指導対応の状況 (R6.4.12現在)

早期支援	0歳児③ 1歳児⑨ 2歳児⑨ (松本市⑦ 飯田市③ 茅野市① 塩尻市② 山形村① 安曇野市③ 下諏訪町① 辰野町① 阿智村① 豊丘村①)	21
通級指導	小⑪(駒ヶ根市・岡谷市・箕輪町・ 茅野市・松本市②・安曇野市 諏訪市・飯田市②・豊丘村) 中③(飯田市・富士見町・松本市)	14

教職員数

職種	男	女	計
校長	1		1
教頭		1	1
養護教諭		1	1
教諭	6	19	25
講師		3	3
早期支援指導員	1		1
早期教育相談員		1	1
実習助手		1	1
寄宿舎教諭	3	4	7
寄宿舎指導員	4	2	6
事務長	1		1
事務職員	1	1	2
管理栄養士		1	1
校用業務員	2		2
学校看護師		5	5
教員業務支援員等	2	3	5
学校医	2	2	4
学校薬剤師	1		1
療育支援員		1	1
合計	24	45	69

出身地別幼児児童生徒数

市町村等	幼	小	中	高	計
松本市	2	4	2	1	9
安曇野市	1	3	2		6
岡谷市	1				1
飯田市			1		1
その他	2		1		3
合計	6	7	6	1	20

高等部卒業生の進路状況 (平成26年度～令和5年度)

進学	4年制大学		3
	福祉就労等	就労継続支援A型	2
		就労継続支援B型	13
就労移行支援		2	
就労	製造	7	
	運輸・通信	3	
	卸売・小売・飲食	1	
	サービス	2	
	公務員	1	
計			34

校内相談窓口：校長室・保健室・職員室
困ったこと・相談等があればいつでも対応



きこえとことばの教育相談 『ミミサポ』 (松本ろう学校のセンター的機能)

難聴児支援センター等と連携しながら、聴カレベルにかかわらず、聞こえにくさのある子ども達が、地域で学習したり生活したりしやすくなるようサポートします。お気軽にご相談ください。

※ 飯田市立丸山小学校内で、月1～2回、0歳～2歳児の早期支援教室も実施しています。

幼保・学校の先生方から

- ・ 難聴のある子どもが在籍しています。職員研修をしてほしいです。
- ・ 一側性難聴等、聞こえにくさのある子どものために、どのような環境への配慮が必要ですか。
- ・ 集団生活の中で、特に気をつけたことは何ですか。
- ・ 水泳学習等、補聴機器を外した活動の時に配慮することは何ですか。
- ・ 英語のリスニングは、どのような配慮をしたらいいですか。

幼児・児童・生徒本人から

- ・ きこえや補聴機器のことを友だちにも知って欲しいのですが、どうしたらいいですか。
- ・ 聞こえにくさのある(補聴機器をつけている)仲間と交流できる機会がありますか。
- ・ 集団生活の中で、どんなことに気をつけながら生活をしていったら、友だちともっと仲良くなれますか。

乳幼児保護者等から

- ・ 難聴があると言われました。どんなことを大切にしたらいいですか。
- ・ 「ことば」はどのように発達し、覚えていくのですか。
- ・ よりよい発達を促すために、どのように関わったり話しかけたりすればいいのでしょうか。
- ・ 補聴器や人工内耳をつけるのを嫌がります。どうしたらいいですか。